

《翻刻・索引》『通常物懸圖教授法』(明治十一年)

The text and a words list of TSUZYOBUTSU-KAKEJU-KYOZYUHO(1878).

大橋 敦夫

Ohashi Atsuo

はじめに

これまで、同種の資料二種について、考察を重ねてきた。すなわち、左記のとおりである。

- ① 『通常物図解便覧』(明治九年)の語彙とその性格——付、語彙索引——『学海』第十八号 上田女子短期大学国語国文学会 二〇〇二年三月
- ② 『通常物図解問答』(明治一〇年)の語彙とその性格——付、語彙索引——『上田女子短期大学紀要』第二十六号 二〇〇三年一月

今回、さらに標記の資料を入手したので、考察を深めていきたい。ついでには、語彙分析の部分が、ある程度の分量になるので、本稿では、まず、本文と語彙索引を提示することとする。

資料の紹介

書誌的事項を以下に示す(図版参照)。

『通常物懸図教授法』(明治十一年一二月刻成発売)

編集人 大月疇四郎

出版人 川又定蔵(三春書林 福島県下田村郡三春町)

見出しに内表紙。本文一七丁。一七丁裏に、刊記。和装タテ二二

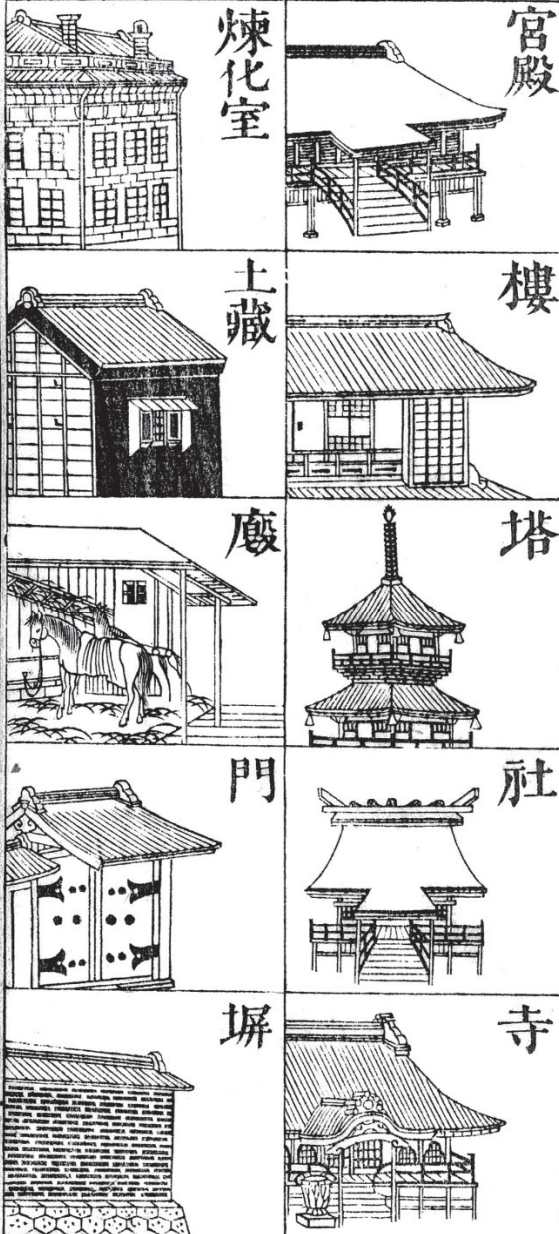
・五×一五・二cm。濃紺色表紙。

懸図を見開きで示した後に、各語の解説を見開きで行っている。

懸図は、全八枚。一図に収録の語は、二五語。よって、合計二〇〇語の解説を示している。

以下に、語彙索引を示すが、凡例は、前記拙稿に準ずる。すなわち、五〇音順で、異体字も可能な限り活字化する。

第一 通常物懸圖



通常物懸解

○第一 通常物圖解

宮殿棟并床々高き家の前面は階なり天子或は皇族の居たり人家なりあり
樓家の上は又一坐なり高く遠く見ゆる家なり凡て二階三階等の家造あり
塔多くの寺の境内にけり橋を幾層にも重ねて高くなるけり遠く見ゆるのあり
社市街又ハ山間なり凡て神体と安置して祭る処なり
寺市街はけり又山間にけり多くの山は傍て造まり凡て仏像を祭り葬式
煉化座煉化碑を以て築き玻璃窓を設けて清潔な造る家あり又石を用いて造る
土藏四方の壁も土に塗り其の上は石灰とけり明窓を設け入口を鎖鑰と堅固にし
廢屋根と壁の間に床を造る此処は馬を繋ぎ置鉢と食を置く処なり
門凡て玄関又ハ家の入口の前面にけり昼も開き夜も閉ぢ人の出入る処なり
塙石を積み上げ其上を瓦と土にて積み屋敷の四方の囲とせしめあり又板を用いて造るものあり
玄關家の表より人の出入る処にして客人来る時も此処より坐敷へ案内する処あり
窓家の外面にて戸を障子と設け凡て明を取り空氣を通じ又外方を眺望する処あり

◆『通常物懸図教授法』(明治一一年) 語彙索引◆

■ア行

アハセ

裕

表と裏との絹を縫合せ温袍の暖か過るとき着る衣服なり(六)

イケス

籾

竹を以て箆を編み此中に生魚を入れ置き河或は海水の中に沈め種々の魚を貯へ置くものなり又板を以て造れるもあり(七)

イシウス

礎

石にて二面を重ね上皿を挽回せば下皿の静にすると軋轢りて穀物等を粉末になすなり(三)

イトグルマ

紡車

臺は木にて造り車を竹にて造り把手を回して紡錘に糸を巻付る為の道具なり(四)

イネカケ

喬杵

枝のある木を切り両方に立て或は二三本の木を結合せて臺となし之に木竹等の竿を掛けて刈穂をかけ晒す為のものなり(三)

イネコキ

拖杷

木に鉄の齒をならべ木の足をつけ稲麦などの穂を抜くに用ゆるものなり(三)

ウス

臼

大なる圓木の切口を凹くほり之に穀物を入れて磨き精げるなり(三)

ウツバリ

梁

松杉等の丸木を用ゐて棟木を支へ柱を受たるものなり(一)

エボシ

烏帽子

アッ カミ オモチ ソ
厚き紙にて造り表面を黒く染め白き紐を付け頭上に被るものなり古代礼式の時用ぬしものなれども
今は用ゐることなし(六)

エリカザリ

襟飾

ビレイ キヌ
種々の美麗なる絹を以て製り洋服を着るとき頸部の飾りに用ゐるなり(六)

エリマキ

襟巻

ヤハラキケ フタ ヲ
柔 毛又は綿にて織り冬日寒氣を防ぐ為に襟に巻着るものなり(六)

エン

椽

イタ
板を以て檐の下に造りすべて坐敷又は窗の障子の前にあり庭より昇降する処なり(一)

オシイレ

押入

ザシキ スミ キラツ イ
坐敷の隅などに設け器物を納るるに用ゐる處をいふなり(二)

オンシツロ

温室爐

ヨウメイ
洋名「ストーフ」といふ鉄にて造り寒中に火を其中に活發し室内に煖を取るに用ゆ多く西洋造りの家
にて之をもちゆ(二)

■力行

カガシ

案山子

ミノカサ カサ
木又は竹を立て之に蓑笠を被せ弓矢を持たせ人の形をなして鳥をおどすものなり(三)

カギ

鑰

ジャウ ドウシュ ツク
鑰と同種の金にて製り鑰のしめを開く為に用ゐるものなり(五)

カクシ

隔子

シカク ケツ ク
木をほそく四角に削り之をしげく組み多くは窗或は土間口に建置くものなり(一)

カケスズリ

懸硯

スミ カナモ
箱を木にて造り隅には金物を打ち上方に硯筆墨水滴等を入置携帯に便利なるものなり(四)

カケヤ	榔槌	大なる圓木を切り之に木の柄を嵌め木材を打ち又棟梁等を打込むに用ゐるなり(五)
カサ	笠	竹の皮菅等にて造るものなり又獸皮にて製し漆にて其上を塗るもあり其形種々なり頭にかぶり雨雪をしのぎ又太陽の光線を遮る為にもちゆ(六)
カスガヒ	鎗	鉄にて造り両端を尖らして折りすべて柱桁等の合せ目の開きしを密着する為に打ち置くものなり又木と木とを連合するに用ゆ(五)
ガストウ	瓦斯燈	地下に鉄管を埋め之に瓦斯の氣を充たしめ路上処々に装置したる燈籠に其氣を通じ之に火を点すれば其氣焼て火光明晰なるものなり(八)
カセグルマ	纏車	木にて造り糸を繰返すとき巻付るものなり(四)
カタビラ	帷子	麻をほそく紡ぎて織り単へに仕立暑中に着る衣服なり(六)
カツパ	襪襪	多く羅紗にて造り雨雪の日外行するときに着るものなり(六)
カナヅチ	鐘	鉄にて造り木の柄をつけ大工は釘などを打ち治工ハ金物を鍛ふるに用ゆるなり(五)
カナドコ	鐵礎	鉄にて造り金類を鍛ふるとき此上に置き鐘を以て擣つ臺なり多くは治工此物を用ゆ(五)
カハラ	瓦	土を焼きて製し屋根を葺くに用ゐるものなり(二)

カベ	壁	泥土に藁又麻などの細切を混和して人家の外面を塗り風雪寒暑を防ぐものなり(二)
カマ	鎌	鎌に二種あり稲刈鎌は刃薄く芝刈鎌は重ねあかし共に鉄にて製し木柄をつけてもちゆ(三)
カマス	蒲簀	簀を二つに折り両側を縄にて縫合せ穀物等を納るるにもちゆ(三)
カミイレ	夾帑	羅紗其他種々の絹或は皮等にて製し金貨紙幣そのたの日用の小道具書付などを入れ他行のときは懷中に入れ持つものなり(六)
カミソリ	剃刀	鉄を鍛へて造り毛髪を剃るに用ゐるものなり(四)
カミダナ	神棚	人家中清潔なる処に神を祭る処にして家々に天照大御神を祭り奉る処等をいふ(二)
カミナリヨケ	避雷柱	屋根の上に銅鉄などの光りたる尖柱を建て此柱より鉄線を地上に引き若し雷火の墮るときは此柱の光氣に就て来り其線を傳て地上に墮るゆへ家屋の災を免るるなり(八)
カヤ	蚊帳	麻又は木綿にて疎く織り之を四角なる箱の形に縫合せ夏は寢処の上に釣て蚊を避るなり(六)
カラウス	碓	皿は木又は石にて造り関振子を足にて踏み杵を上下して穀物を磨くにもちあるものなり(三)
カラスキ	犁	鉄を以て造り木の柄を嵌め牛馬に曳かせ田圃を耕すに用ゐるものなり(三)
カンナ	鉋	鉄にて造り堅木の臺に嵌め板又は木を平直に削る為に用ゆる道具なり(五)

カンバン	招牌	其形種々あれども多くハ板にて造り賣品の名又屋号姓名等を記し人の目標とす(二)
キウデン	宮殿	棟井に床を高くし家の前面階あり天子或は皇族の居たまふ家をいふなり(一)
キネ	杵	木にて造り臼に入る所の穀物を擣くものなり(三)
キリ	錐	鉄にて造り其形ち釘の如く板木に揉通す為の道具なり(五)
キンチャク	荷包	多く羅紗にて製し表面には金銀其他種々の色糸を以て種々の縫模様をなし此中には神仏の符を入れ て児童の帯などに結付るものなり(六)
クギ	釘	鉄にて造り一方を尖らしすべて板木等を打着るに用ゐるものなり(五)
クギヌキ	千鈞	鉄にて造り上の口にて釘の頭を挟みて釘を抜くに用ゆ(五)
クサリ	鎖	金銀アルミル鉄等にて製り懐中時計等に付るものなり又鉄製の大なるものは蒸気船其他のものを繋 ぎ留る等に用ゆ(五)
クシ	櫛	木又は鼈甲象牙等にて造り時画等をつけ女の髪飾にもちゆ又木製のものは多く毛髪を梳るに用ゐ るなり細かに割たる所を齒といひ其上方の厚き所を胸といふ(四)
クマデ	楸策	竹又は鉄にて手の指を開き曲たる形に造り枝葉又は穢物をかき集むるものなり(三)

ケイキキウ

軽氣毬

俗に之を風船ソク フウセンといふ竹又は藤トにて造りたる船の上に布囊ヌノフクロを装置し之に瓦斯ガスの氣を充たしめ空中に放ハナち風に任せ其船中に乗る者機関ノ カラクリを攬トリて自在に飛行し下界ハカを測り敵陣ウカガを窺う等に用ふ(八)

ケタ

桁

松杉檜等の木を四角に削り柱と柱との間に架カしたる木をいふなり(一)

ケムリダシ

煙突

鉄又は瓦カハラにて圓筒形に造り臺所或は焼火場の屋根の上に置いて煙を噴フカすものなり(二)

ゲンクワン

玄関

家の表ヨモテにあり人の出入する処にして客人来る時は此処より坐敷へ案内する処なり(一)

ケンビキヤウ

顕微鏡

種々の水晶鏡スイショウスガネを装置し細微の物を見るときは其形数百倍に見ゆるものなり(八)

コタツ

巨燵

木を以て矢倉ヤグラを組み小炉の上に置き蒲團フトンを其上に覆ひ火を炉中に入れ寒中には手足アタタを煖アタタむる為に用ゆるものなり(二)

コテ

泥鍔

鉄にて造り木の柄エを嵌め土壁ハ又竈等カマドを塗るとき土を塗る為に用ゆる道具なり(五)

コバ

構

杉スギ又栗などの木を薄く割き屋根ウスを葺サくに用ゐるものなり(二)

コモ

薦

藁にてあみ両端を剪キらず荒物を包み穀物等を包むに用ゆ(三)

コリ

行李

柳又ハ竹にて造り種々の物を納るるに用ゆ旅行等に携リョウリョウふる由て行李の名なりといふ(二)

コンパス

互更針

鉄鎮鏝等にて造り兩脚レウフツの先を尖らし図引にもちゐるものなり(四)

■サ行

サイツチ

柶^{ウチコ}

木にて造りすべて道具などを打込み又紙などをうつに用ゆ金類を打には用ゐす(五)

サイフ

財布

絹木綿等にて囊^{フクロ}に縫ひ金銭などを納るものなり(六)

ザウリ

草履

藁^{ワラ}を以て製り板の間或は庭土間などを歩行するとき用ゆるものなり(六)

サジ

羹匙

錫又陶器の物おほしすべて食料の汁物を吸ふ為に用ゐるものなり(七)

サシガネ

矩

鉄又は鎮^{シンチュ}鎗にて造り尺寸分の目を彫り直角又は平面の器物を造り又図画^{ツグワ}を記すにもちゆ(四)

サデ

趕網

麻糸を以て編み竹又は木の柄を付け魚類其他水中の物を採るに用ゆ(七)

ジテンシヤ

自轉車

鉄を以て製造し人之に跨がり足にて車の羽^ハを踏み手に楫^{カチ}をとり自由^{ジュウ}に道路を行くなり(八)

ジャウキシヤ

蒸気車

石炭を焼き釜中の水を沸騰せしめ其氣勢^{キセイ}を藉^{カリ}て機関^{カラクリ}を運轉^{ウンテン}せしめ数多の乗車を連続して鉄道の上を
行く車なり其迅速なること概ね一時間に国に十里を行くといふ(八)

ジャウキセン

蒸気船

石炭^{セキタン}を焼き釜中の水を沸騰せしめ其氣力を以て種々の車輪^{シュジュ}を運轉^{ウンテン}し此装置^{シカケ}を船室^{フナボ}に設け自在^{ジザイ}に水上
を駛る船也此船ハ西洋の發明にて今我國にても製造す又順風には蒸氣を用ゐず帆^ホにて駛るもあり

(八)

シヤウジ

障子

細き板を組立て之を骨ホネといふ骨に紙を張り多く家の便宜の処に立てて風を遮り明をとる(二)

シヤクシ

杓子

木にて造り飯を盛り或は汁などを汲むに用ゆ(七)

シヤシンケウ

写真鏡

箱の中に水晶の鏡を仕込み此箱の前面に人物或は種々の物を置き此箱の中の鏡に照し別に薬を塗りたる鏡を入れ前面にある物を写し取る器械なり(八)

シヤモノ

毛褥

洋名「ジウタン」といふ毛織物にて軽暖なり多く坐敷の敷ものとす(二)

シンシ

簇

竹をほそく削り両端を尖らし帛類を晒すとき乾縮せぬ為に用ゐるものなり(四)

シンブンシ

新聞紙

諸官省布告又は世上の珍事物價表廣告社説等を鉛字にて日々刷行し人の聞見を廣くする有益のものなり(八)

ジンリキシヤ

歩輓車

両輪ありて挽夫之を曳き一人又は二人を載せ道路を行く車にして明治中我国の発明なり(八)

スキ

鋤

鉄を以て造り木の柄を嵌め田圃を耕すに用ゐるものなり(三)

スミツボ

墨斗

木にて造り車を仕込み之に糸を巻付け其糸を墨斗の中に通し糸端に小さき錐を附け板又は木等の長きものを平直に截るときは此墨糸にて黒線を引くに用ゆるものなり(五)

スミトリ

炭斗

竹又は籐或は木にて造り炭を納るるものなり(七)

スリウス

確

木にて造り外面を竹にて編み稲の籾を摺り除くるに用ゆ(三)

スリバチ

播盆

土を焼きて造り内部に織絡を刻み播木を以て食物を粉碎(コナス)するものなり播木は木にて造り播盆の中に入るるものを播る棒なり(七)

セイウシン

晴雨針

外囲は銅又は鎮鏝等にて造り中に種々の機関を設け又玻璃管に水銀を充たし此水銀氣候の変化に従て昇降し前面の針を動かす故に風雨晴などの機を前に示す為のものなり(八)

セキバン

石盤

石を平らに薄く切り木の縁をつけ洋算又は書画等を記すものなり石筆は柔質の石にて造り之を用ゐて石盤に書くものなり(四)

セフレイフク

小禮服

黒羅紗にて造り祭式日には官民ともに用ゆるなり(六)

センヌキ

酒鑽

鉄にて造り尖頭を螺旋らし木の柄を嵌め酒壇の塞子を抜くに用ゆ(七)

ソクリヤウキ

測量器

木の臺の上に鏡を装置し是より前方の目標を望みて道路の里程田圃の丁数等を量り知るものなり此鏡の傍には度数等を刻したる種々の器械あり(八)

■タ行

ダイレイフク

大禮服

羅紗を以て造り金銀或は(モール)にて胸襟袖等に飾を縫ひ付け祭日式日等には官員の礼服とせり飾りは等級によりて多少の差あるなり又袴の色は勅奏判任皆異なり(六)

タカドノ

樓

家の上に又一坐あり高くして遠く見ゆる家をいふ凡て二階三階等の家造なり(二)

タタミ

畳

藁カを編アみて表となし藁オモテを以て床フロを造り之を縫ヌヒ合せて人家の敷物シキモノとなすものなり(二)

タタラ

踏鞴

石又は煉化石レンクワセキを積立て足にて踏フミ板イタを踏みその氣を以て火ヲコを活カ発しすべて堅質カタキの金類カネ或は多量オホの金類カネを鍛トカすに用ゆるものなり(五)

タビ

足套

白黒の二種あり木綿にて縫ヌひ寒中オホには足に覆フふものなり又我國の俗にては儀式ギシキの時トキには寒暑カカに拘カはらず足套を用ゐたり(六)

タフ

塔

多くは寺の境内オホにあり檐テラを幾層ケイダイにも重ねて高くのぼり遠く見ゆるものなり(一)

タルキ

檼

木をほそく四角シカクに削ケツり桁ケタより桁に架し天井板等を打ち着ウツくる木をいふ(二)

チキウギ

地球儀

圓マロき形の物を造り其表面に地球上の水陸或は國疆等コクケウを記し又經緯タテヨコの線を引き度数を示し地球運轉の理を説明す為に用ゆるものなり(八)

チギリ

膝

木にて造り織るべき糸ヲを卷マけ置ハタ之ヲを機架ウシロの後方にかけ織るに隨て糸を送り出す為のものなり(四)

ヂヤウ

鐐

真鍮銅鉄等にて造り扉又は箱などのしまりに用ゆるなり(五)

チリハラヒ

拂塵子

鳥毛トリゲ或は紙片カミキレを束ツガね竹又は木の柄ユヒツを結付け器物又は坐敷等の塵汚チリをはらふに用ゆ(七)

ツキン

頭巾

羅紗又は絹等にて製し頭カブに被り首をおほふものなり多くは寒中病中などにもちゆ(六)

ツツラ

葛籠

多く竹を以て編み上面に紙を張り漆を塗り衣服等を納れ携帶に便なるものなり(二)

ツム 紡錘

鉄の細長き針を造り之を糸車にしかけ車を回して糸を巻付るなり(四)

ツリ 釣

鉄鉤に餌を刺し細き糸にて釣竿に結付け水中に投じて河海の魚を釣るなり(七)

デウギ 定規

樫又は槻等の堅木を以て平直に造り物を截つとき之を標準として切るものなり(四)

テオノ 鉦

鉄にて造り木の柄を嵌め板又は木材等の荒削りをするに用ゆ(五)

テツダウ 鐵道

平直なる道に並行の鉄軌を連続し蒸氣車を通行せしむるものなり鐵道中便宜の処に停車場あり乗客昇降する処なり(八)

テラ 寺

市街にもあり又山間にもあり多くは山に傍て造れり凡て仏像を祭り葬式を行ふ処なり又境内にも墓所あり(二)

デンシンキ 電信機

越歴の装置を以て銅線を遠く連架し之に其氣を通ずれば瞬間に其事由を千百里の遠きに達す(八)

テンゼウ 天井

座の上の様に板を打ちつけ或は紙を張り或は石灰にて塗るもあり屋根裏の塵を防ぎ又洋燈を釣る処なり(一)

テンモンダイ 天文臺

地上に高き木の臺を築き是に大なる望遠鏡を装置し之より天を望みて日月星の形象等を見るものなり(八)

ト 戸

板を以て造り人家の出入口に建置き開閉自在ならしむ多くは昼開て夜閉づるなり(二)

トイシ	礪	種類数多あり通例用ゐるものは荒砥青砥天草名倉等なり(五)
トウアミ	投網	麻或は蚕の糸にて編み周辺に鉛又は石の重りを結付け糸は洪を以て染め魚を捕るに用ゆ(七)
トウグハ	唐鍬	鉄にて造り木の柄を嵌め土をほるに用ゆるなり(三)
トウミ	風扇車	木にて箱を造り車をつけ此車扇にて糠と穀とを分簸するものなり(三)
トウメウダイ	燈明台	海岸又は島嶼の上に高く臺を築き夜間其上に燈火を点じ海上通船の目標となすものなり(八)
トウメガネ	望遠鏡	管中に数箇の水晶鏡を嵌め之より遠方を望めば其物体明了に見ゆるものなり凡て鏡管は伸縮自由なるものに作るなり(八)
トウロ	燈籠	其形種々あり玻璃を用ゐて造り燈火を其中に点じ坐敷又は椽側などを照すに用ゆ又石或ハ木にて作れるものは道路或は庭砌を照らすに用ゆ(二)
ドゾウ	土蔵	四方の壁は土にて塗り其上に石灰をつけ明窓を設け入口を鎖鑰を堅固にしすべて宝物あるひは種々の所有物を入置火難盗難を防ぐ為のものなり(一)
トダナ	戸棚	木にて造り前面に戸を入れ坐敷に置くものは書冊其他の器物を入れ臺所に置くものは膳碗等を入れ置くものなり(七)

トビラ	扉	板にて造り鉄又は銅の飾り金物をうちて左右にひらく戸なり多く神社仏閣の入口又は城門大門等に用ゐたるものなり(一)
ドヘウ	土豚	俵の中に土石砂等を入れ川岸など土の崩れ易き処を防ぎ又戦地にては胸壁に用ゆ(三)
■ナ行		
ナガグツ	長靴	通常の靴より踏込長くして膝骨の下まで入れ凡て雨雪の日外行するに用ゆ(六)
ナガモチ	長持	木にて造れる大なる箱にて衣類器物等を納るる為に用ゆるなり(二)
ナハ	縄	藁を以て長く綯ひ種々のものを束ね其他百般の用に供す(五)
ナルコ	鳴子	竹を短く切り之を数多く板に結付け田圃の上に張置き鳥雀等の蒔種又は穀物を食ふときは之を引
		き鳴して追ひ逃す為のものなり(三)
ニクサシ	叉手	多く白銅にて造れり禽獣魚肉等を刺して食ふ為のもの但し西洋の料理に供ふ(七)
ニグルマ	荷車	両輪ありて上の荷物其他種々の物品を載せ運送するものにて人の力を以て推し行くなり(八)
ニナヒオケ	擔桶	板を丸く組み竹輪を嵌め両方の角に縄を通し棒にて擔ぎ水などを運ぶに用ゆ(三)
ネズミトリ	柵	鉄線或は銅線にて編み内に機関をしかけ鼠を擒ゆるに用ゆ(七)

ノキ	檐	ヤネ 屋根のすへの終る処にして雨滴の落る処をいふなり(一)
ノコギリ	鋸	テッ 鉄を薄く展べ鑢を以て齒を刻み木の柄を嵌め木材又板などを截る為に用ゐる道具なり(五)
ノミ	鑿	テッ 鉄にて造り頭に刃を設けて先きに衝き切るものなり多く木材などに穴を鑿るに用ゆ(五)
ノレン	簾帷	シャウカ 商家などの表口にかけ屋号姓名等を記し目標にするものなり多くは木綿を染貫て作るものなり(二)
■ハ行		
ハカリ	秤	サラ 棹は木又は象牙等にて製し目方の標点を施し一方に金の皿を釣り一方には金類の錘を附け凡て量るべき物を此皿にのせ把手の糸を持って物の軽重を秤り定むるものなり(四)
ハシ	箸	ソウゲ 金銀木竹又は象牙等にて造り食物を夾み食ふ為のものなり(七)
ハシゴ	階子	イナダンイナダン 木を以て造り一階一階に高くなり宮殿樓閣などの昇降の処に用ゐる踏段なり又梯子は階より手輕にして便宜の処に持行き之をつけて昇降するを得るものなり(二)
ハシフネ	端舟	オホフネ 巨船に附属したる小船なり上陸或は運艚等のときは櫂又は櫓にて漕ぎ往来に便するなり(八)
バシヤ	馬車	イッピキ 一匹乃至四匹の馬に曳かせ車中に人を載せて道路を行く車なり(八)
ハシラ	柱	マツスギヒノキ 多くは松杉檜等の木を四角に削り家の骨となり梁桁等を支ゆるものなり(一)

ハタ

機

木キにて造り種々ツク シュジュ シカケの装置ありて絹キヌ或は木綿モメンを織る道具なり(四)

ハハキ

蓐

竹枝或は黍穗を以て造りたるものは多く土間庭などを掃ワラくに用ゐる蓐ド マニワ或は棕櫚毛シュロゲを以て造りたるものは竹の柄を附ザシキけ坐敷を掃ワラくに用ゆ(七)

ハリ

針

鉄テツにて造り一方を尖トガらし一方に小なる孔チイ アナをあけ之に糸をとほし衣服等を縫ヌふものなり(四)

ハリバコ

針箱

木にて造り抽斗ツク ヒキダシをつけ裁縫の道具を入れ箱の上に綿ワタ又は毛を入れたる針指ハリサシを付るなり(四)

ヒ

杼

木にて造り中に穴を穿アナち其間に巻糸マキイトを入れ織物をするとき緯糸ヌキイトを入るに用ゐるものなり(四)

ビードロカガミ

玻璃鏡

大なる玻璃ウラの裏に水銀ミスカネを塗り縁は木にて製り金或は銀色に塗りすべて身体を映写し見る為に柱或は鏡架カガミタテにかけ置くものなり(八)

ヒウチダウゲ

燧具

燧金ヒウチガネは鉄にて造り之を以て燧石ヒラチイシに軋摩ウチアハし火綿ホクテウタを持そへて火を出す道具なり(七)

ヒサシ

庇

檐ノキの先に又板サキを用ゐて葺出フキし多くは窗の上にありて雨雪を支ササゆる為のものなり(一)

ヒタタレ

直垂

多くは精好セイガウを以て造り古製の礼服にして位階に因り其色或は紋等の差タガひあるものなりしが今代は用ゐることなし(六)

ヒノシ

鈷鋤

銅又鎮鋤シンチュにて造り木の柄を嵌め火を入れ帛類キヌレイ シウの皺シワを伸す為のものなり(四)

ヒバシ

火鉗

鎮鋤銅鉄シンチュウの類にて造り火を挟ハサむに用ゆるものなり(七)

ヒバチ	火爐	木にて造り中に銅炉を入れ其中に灰と火を入れ湯を沸し食物を煮手を煖る等に用ゆ(七)
ヒフキダケ	吹火筒	竹にて造り後の節に小さき穴をあけ火を吹く為に用ゆ(七)
フイゴ	橐籥	木にて造り把手を出入すれば箱の前後の穴より空気を吹き火を活発すに用ゆる道具なり多くは冶工 イカケン 鑄懸師など之を用ゆ(五)
フクサ	帊	單に造るもあり又裏絹を着るもあり凡て良き絹にて製し衣服物器を包むにもちゆ(六)
フスマ	紙障	障子の如き骨を紙にて両面を張り多くハ坐敷との間に立てて彼是相見へざるために用ゐるものなり (二)
ブツダン	仏壇	家々祖先を祭る棚にて先祖代々の位牌を安置する処なり今我國の俗多く之を用ゆ(二)
フミグルマ	龍骨車	木にて造り車をしかけ水中に置き足にて踏み回し溝等の水を田圃へ送る為のものなり(三)
フロオケ	風呂桶	板を合せて囲となし竹輪或は銅輪を以て束ね鉄又は銅の釜を傍に設けて火を其中に焚き水を温 カゴ タケノコ アカガキ ツガ カマ カタハラ めて身体を清浄にするに用ゆ其形種々あり(二)
フロシキ	袱	絹又は木綿にて製し種々の花紋を記し物を包み携帯するに用ゆるものなり(六)
ブンチン	文鎮	石又は金類にて造り机上の紙などを押へ置くものにして其形種々あり(四)

ブンマハシ

規

鎮鋤シンチュ又は竹にて造り両脚レウアシの一方を尖らし一方に墨水スミを含ませ圓径フクの図マルを画ズくにもちゆるなり(四)

ヘイ

塀

石を積上げ其上ツミを瓦ウヘと土にて積み屋敷ヤシキの四方の囲カヒとなすものなり又板を用ゐて造るもあり(一)

ベウブ

屏風

紙障フスマのごとく木を組みて骨ホネとし紙を張り屈膝クツザシを施して曲折マカマカを得せしむ家中便宜ヨリマカリの所に用ゆ屏風に二

曲六折八幅等のものあり(二)

ボタン

扣鈕

銅アカガネ 又は種々の金にて造り種々の花紋等を彫り付け礼服用或は通常ホの洋服の胸部ムネを閉ぢ又飾等に用ゐ

るものなり其他玉材貝殻等にて造れるもあり(六)

ホマヒセン

帆舞船

蒸氣シカケの装置なく只順風に帆をひらき水上ハスを駛るなり其船形は蒸氣船に似たり然れども二檣フタツホシラ 或は

三檣ミツホシラの船なり(八)

ポンプ

唧筒

皮カハの長き囊フクロを作り其一方を木製の大なる箱に通し此箱に水を入れ機械キカイを推して其水を囊フクロより思ふ

処に进出し凡て火災を鎮め或は甲板道路等を洗ふに用ゆ(八)

■マ行

マクラ

枕

木の臺の上にそばモミがら又は糲モミなどを入れたる袋を結付け頭を載ノするものなり又臺なくして大なる袋のみを用ゆるもあり(六)

マド

窗

家の外面にて戸ト又は障子シャウジを設けて凡て明を取り空氣クウキを通はし又外方を眺望テウボウする処なり(一)

マナイタ

肉几

木にて造り肉類ニク菜類サイを載ノせて切るときキの臺になすものなり(七)

マンガ	秒把	木槌に鉄の疎なる齒を嵌め秩を挿む期に先だち之を牛馬に曳かせ田土を混和するにもちゆ(三)
マンリキ	萬力	鉄にて造り螺旋を回し上方を開閉してすべて細工すべきものを夾み螺旋にて動かざるやうにしめつけるものなり(五)
ミ	箕	細く割たる竹片藤蔓にて編み穀物の糠を簸揚するに用ゐるなり(三)
ミス	簾	竹を細く割り之を糸にて編み家の内外の際に垂れ人の視見るを遮る為のものなり(二)
ミズイレ	水滴	金類或は陶器類にて造り硯へ入るの水を貯へ置くものにして其形種々あり(四)
ミツガメ	水瓶	土を焼きて造り水を入れ置くものなり(七)
ミツグルマ	水車	大なる木製の車を河中に装置し水の流るるに従て車輪を轉じ其車軸を一方に通じ碓を簀かせ或は種々の製作の機関を運轉せしむる等の用になすなり(八)
ミノ	蓑	藁或は棕櫚毛などを以て造り雨雪の日着るものなり多くは農家は之をもちゆ(六)
ムシロ	筵	藁にて細かに織り両端をあみつけ穀物其他の物をさらし或は包むに用ゆるものなり(三)
ムネ	棟	屋根の頂上にして瓦を積上たる処又梁の上に横りたる大木をいふなり(一)
ムマヤ	厩	屋根と壁のみにして床を造らず此処に馬を繋ぎ置秣を食はす処をいふ(一)

モツコ

畚

繩にて網の目の如く編み両方に長き紐をつけ土砂塵汚物などを盛り擔ひ運ぶものなり(三)

モノサシ

裁尺

竹にて造り寸分の目を彫り帛類を裁つとき寸法を量るものなり(四)

モミフルヒ

糲篩

金網を以て竹と棕櫚毛にて編みたる圓輪の底となし糲と米とを篩ひ分るものなり(三)

モン

門

凡て玄関又は家の入口の前面にあり昼は開き夜は閉ぢ人の出入する処をいふなり(一)

■ヤ行

ヤゲン

薬研

鉄にて造り多くは薬剤等の物を粉末にする道具なり(五)

ヤシロ

社

市街又は山間にあり凡て神体を安置して祭る処をいふ(二)

ヤスリ

鋸

鋸鉄にて造りすべて金物を擦り又は鋸の刃を尖らす等の道具なり(五)

ヤナ

築

竹を簾の如くに編み之を河瀬の間に装置し河魚の流れ来りて此築に罹るを擒る為のものなり(七)

ヨツデアミ

提簀

麻糸にて四角に編み四隅に竹を付け此竹を中央に束ねて竹又は木の柄に結付け此簀を水中に沈め置

河中の魚を引上げ擒るものなり(七)

■ラ行

ラウカ

廊下

家と家との離隔したる間に造り彼方より此方へ容易く通行する為の処なり(一)

ランカン

欄干

木にて造り楼上の椽側および橋梁の危険なる所を遮るに用ゐるものなり(二)

ランプ

洋燈

ビードロ カネ
 玻璃と金にて造り石炭油を注ぎて火を点し家室を照らすに用ゆ近來繁花の地にても家ごとに用ゐざる処なし(二)

リングワシツ

煉化室

リングワセキ キツ ガラスマド マフ セイケツ
 煉化石を以て築き玻璃窓を設けて清潔に造る家なり又石を用ゐて造るもあり西洋各国は皆この建築なり(一)

ロクロ

轆轤

アサ カハ ヒモ シンギ
 木にて造り麻又は皮の紐を軸木に巻付け此軸木の一方に削るべき木材を打着紐を引けば軸木回旋するゆへ削刀を用ゐて圓き器物を細工する道具なり(五)

■ワ行

ワク

楯

マキツケヲ
 木にて造り糸を巻付け置くものなり(四)

ワサビヲロシ

薑擦

アカガネ ヤキモノ セウガ ヤサイ ヲロ
 銅 又は陶器にて造り 薑大根等の野菜を擦すに用ゆ(七)

ワタイレ

温袍

オモテ キヌ ウラ
 冬服なり 表の絹と裏の絹との間に綿を入れ身体を温暖ならしむる為の衣服なり(六)

ワタクリ

攪車

クツツケ
 木にて造り二ツの丸木を密接し之を一方より回し綿絮を放し綿実を繰出す為のものなり(四)

ワラジ

草鞋

カカト ヒモ
 藁を以て製り踵の処に紐を設け山行あるひは遠行等のときに紐にて足に結付け歩行すれば甚だ輕便なるものなり(六)

ヲサ

箄

ウス コマカ ケツ
 竹を薄く細に削り之をしげく組み機を織るとき之に経糸をとほして緯糸を打入るるものなり(四)